

## 令和5年度第2回循環器病対策推進に関する小委員会(心疾患関連)

- 日 時 令和5年10月26日(木) 午後4時～午後5時
- 開催方法 オンライン開催
- 出席者 16人  
山本委員長、加藤克・加藤達・吉田・宮崎・水田・角田・畑野各委員  
県健康政策課：山崎課長、井上係長  
健康対策協議会：渡辺会長、岡田理事  
健康対策協議会事務局：岡本事務局長、岩垣次長、田中主任、廣瀬主事

### 挨拶(要旨)

〈渡辺会長〉

循環器対策は国のモデル事業が今年度から認められ、鳥取大学と連携して新たな事業が行われている。来年度に向けてさまざまな計画が立案されつつある。また、鳥取県循環器病対策推進計画を新たに策定するにあたり、来年の4月から実施される鳥取県第8次保健医療計画に整合させていく非常に重要な時期にもあたっている。本日お集まりの小委員会の委員の皆様にご意見を頂戴し、充実した推進計画ならびに鳥取県保健医療計画につながるような議論をお願いする。一般委員の畑野様におかれましては、忙しい中、参加いただき感謝する。引き続きお願いする。

### 報告事項

#### 1. 令和5年度第1回小委員会以降に決定した今年度事業について：井上係長より説明

県民への循環器病普及啓発を目的とした一般県民向け公開講座を日本循環器学会中国地方海と合同で10月29日(日)13:00より鳥取県健康会館でハイブリッド形式にて開催する。今回は東部圏域の先生方と看護師の方に講師を務めていただき、患者代表として畑野委員にもご講演をしていただく。

11月19日(日)には多職種連携を目的として多職種連携従事者研修会を13:00より完全オンラインでの開催を予定している。鳥取大学医学部・鳥取県立中央病院の先生方と鳥取赤十字病院の看護師の方に講師を務めていただく。

#### 2. 令和6年度県予算要求方針について

脳卒中・心疾患に係る対策は今年度に引き続き、県と健対協とで共同実施で予算計上を検討している。小委員会委員の開催(520千円)、一般向けの講演会開催(260千円)、多職種連携を目的とした従事者研修会(260千円)。

新規事業として、脳卒中・心臓病等総合支援センターの運営支援を検討中。今年度、国のモデル事業の補助金交付が決定している鳥取大学医学部附属病院に10月より脳卒中・心臓病等総合支援センターによる相談支援体制の組織を立ち上げている。また、昨年度からの心疾患に関する遠隔リハビリテーション事業の来年度の継続実施に向けて予算要求を検討している。若年者の心臓検診による健康管理の充実や循環器予防対策に係る啓発資料等の作成費については継続事業として予算計上を検討している。

## 協議事項

### 1. 鳥取県循環器病対策推進計画の改定について:

#### 山崎課長より説明

医療計画と関連計画との一体的策定が出来る旨の国通知により、本県循環器病対策計画も保健医療計画との一体的策定の方向である。現在、脳卒中対策や心血管疾患対策は5疾病ということで医療計画の中にも記載されているが、循環器病対策の計画を一体的に策定する中でより詳細なものを示していきたいと考えている。

循環器の次期計画の特徴・追加項目の見直しとして、第八次保健医療計画との一体的策定については循環器病の一次予防に係る施策では、鳥取県健康づくり文化創造プランによって、運動、食事、飲酒、喫煙等、他分野における取り組みで推進していくことを打ち出していく。新興感染症流行時の医療提供体制に係る施策も循環器の通常医療と災害や感染蔓延の対策の両立について、鳥取県感染予防計画により推進していくことを示していく。医師数の確保に関する施策についても鳥取県医師確保計画により推進していくことを示していく。

小児循環器診療、成人先天性疾患診療については、関連4学会からの提案通知を受け、小児循環器領域、成人先天性疾患領域に係る記載を次期計画へ盛り込む。関連する取り組みとして、小児慢性特定疾患診療時の交通費助成や鳥取大学医学部附属病院の成人先天性心疾患連携修練施設認定を受けた動きがあった。これらの動きを次期プランの中で継続していく内容を策定中である。

今後育成すべき医療人材については、多職種連携が非常に重要であり医師以外のメディカルスタッフについて育成すべき人材として掲載することが重要である。資格名・制度名、その資格・制度が担う役割などを明記しプランの中に盛り込む

ことで方向性を示していく。また、急性期の医療に係る人材として、心臓血管外科医だけでなく、周術期管理を鑑み、集中治療専門医の育成についても課題・取り組みに追記していく。

現在取り組んでいる、循環器病に関する県民向け講座や多職種連携従事者研修会や脳卒中・心臓病等総合支援センターの開設・鳥取大学と日南病院における心疾患遠隔リハビリテーション事業を記載し、次期計画は継続・拡充していくことを記載していく。

表現の追記・修正した部分としては、循環器病対策として心血管疾患・脳血管疾患対策をまとめて記載していたが心筋梗塞等の心血管対策として切り離して再編した。救急搬送体制の整備の部分で現行計画の「初期対応の課題」に加え、救急搬送の決断をするための医療機関の間における画像情報共有システムが構築されていない現状も記載し今後西部エリアで先行的にJOINの導入の動きがあることについても記載をした。目標値については、令和22年度までに3年以上の延伸とすることとし、令和11年度までに1年以上の延伸を今回の計画期間の目標を考えている。虚血性心疾患の年齢調整死亡率は引き続き低減を目指し、毎年度取れる指標として平均的自立期間の延伸の追記を考えている。

加藤達生委員からの意見を受け、おしどりネットとJOINの使用場面の違いについても参考情報として、記載するようにする。

今後は、関連計画との整合性を踏まえながら、計画内容を確定し、メール等で意見照会をした後にパブリックコメントにかける。

### 2. その他

現在、おしどりネットでは心電図での情報共有ができていないのだが、心電図も情報共有ができるよう取り組みが進んでいる。